



不二製油株式会社

2027 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会

2026 年 8 月 7 日

イベント概要

[決算期] 2027 年度 第 1 四半期

[日程] 2026 年 8 月 7 日

[時間] 16:00 – 16:57
(合計：57 分、登壇：14 分、質疑応答：43 分)

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 1 名
取締役 上席執行役員 最高財務責任者（CFO）
前田 淳（以下、前田）

本資料は全ての質疑応答の記録に、ご理解いただきやすくするための編集を行っております。

登壇

司会：定刻になりましたので、ただいまより、不二製油株式会社の 2026 年度第 1 四半期決算説明会を始めさせていただきます。

前田：本日は 2026 年度第 1 四半期の決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。CFO の前田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。



目次

 不二製油株式会社

1. 2026年度 第1四半期実績

2. 2026年度 通期業績予想

3. 参考資料



2 ページ目をご覧ください。本日の目次です。第 1 四半期実績、通期業績予想の順にご説明いたします。

2026年度 第1四半期実績

(単位:億円)

	FY2025 1Q実績*1	FY2026 1Q実績	前年同期比
売上高	1,818	1,798	▲20
事業利益	55	96	+41
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	31	56	+24

売上高 1,798億円 前年同期比 ▲20億円

植物性油脂事業は増収も、業務用チョコレート事業ブラマーにおける原材料価格下落に伴う販売価格低下により減収。

事業利益 96億円 前年同期比 +41億円

業務用チョコレート事業ブラマーでのカカオに関連した特殊要因(以下、カカオ特殊要因)の費用減少や、大豆加工素材事業でのプロテイン需要の拡大を捉えた販売数量増加を主因に増益。

親会社の所有者に帰属する

四半期利益 56億円 前年同期比 +24億円

ブラマーでのカカオ特殊要因の費用減少や大豆加工素材事業の事業利益伸長により増益。

4 ページ目をご覧ください。2026 年度第 1 四半期の実績です。売上高は 20 億円減収の 1,798 億円、事業利益は 41 億円増益の 96 億円、四半期利益は 24 億円増益の 56 億円となりました。

まず、売上高につきましては、植物性油脂事業では、主要原材料であるパーム油の価格上昇に伴う販売価格の改定により増収でしたが、業務用チョコレート事業のブラマーにおけるカカオ価格の下落に伴う販売価格の低下により、減収となりました。

続いて、事業利益ですが、業務用チョコレート事業におけるブラマーでのカカオに関連した特殊要因の費用減少に加え、大豆加工素材事業では、プロテイン需要の拡大を捉えた販売数量の増加により、増益となりました。

四半期純利益につきましては、事業利益の伸長により、増益となりました。

2026年度 第1四半期実績／事業別

2026年度 第1四半期実績／事業別

(単位:億円)

	FY2025 1Q実績*	FY2026 1Q実績	前年同期比
売上高	1,818	1,798	▲20
植物性油脂事業	632	719	+87
業務用チョコレート事業	876	754	▲123
乳化・発酵素材事業	225	235	+10
大豆加工素材事業	85	91	+6
事業利益	55	96	+41
植物性油脂事業	89	84	▲5
業務用チョコレート事業	▲33	5	+38
乳化・発酵素材事業	1	1	+0
大豆加工素材事業	▲0	7	+7
連結調整	▲1	▲1	+0

事業別 事業利益



植物性油脂

- ・チョコレート用油脂(CBE)の販売は堅調に推移。
- ・原材料価格安定による利益が前年同期から縮小。



業務用チョコレート

- ・ブラマーではカカオ特殊要因の費用減少に加え、コンパウンド製品の販売数量が伸長。
- ・ブラジルでは価格改定により収益性が向上。



乳化・発酵素材

- ・日本ではクリームやマーガリンの販売数量が増加。
- ・アジアでは市況低迷の影響が継続。



大豆加工素材

- ・提案強化、品質改良によりプロテイン需要の拡大を捉え、大豆たん白素材の販売数量が増加。

* 上記の連結業績は個円未満を四捨五入した数値を表示。

*1 2025年度の植物性油脂事業において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、確定後の事業利益の値を反映。

5 ページ目をご覧ください。事業利益について事業別に説明いたします。

まず、植物性油脂事業ですが、チョコレート用油脂（CBE）の需要は引き続き強く、販売は堅調に推移いたしました。一方で、前年同期には原材料価格が安定していたことで確保できた利益がありましたが、今年度はその利益は縮小いたしました。

続いて、業務用チョコレート事業です。ブラマーでは、カカオ特殊要因の費用減少に加え、コンパウンド製品の販売数量が伸長しました。また、ブラジルでは前年度に行った販売価格改定により、収益性が向上しました。

乳化・発酵素材事業では、日本で製菓製パン市場向けに、クリームやマーガリンの販売数量が増加しました。一方、アジアでは、市況低迷の影響が継続し、販売数量が減少しました。

大豆加工素材事業では、プロテイン需要の拡大で、ソイプロテインにも注目が集まるなか、提案強化や品質改良を進めたことにより、販売数量が増加しました。また、機能剤も前年度を上回る販売数量で推移いたしました。

2026年度 第1四半期 事業利益増減分析

前年同期比 事業利益増減分析



数量要因	植物性油脂事業のチョコレート用油脂(CBE)や大豆加工素材事業の大豆たん白素材の販売数量増加。
単価要因	ブラマーにおけるカカオ相場下落に伴う販売価格の低下はあるも、カカオ特殊要因の費用が減少。
固定費・経費・為替等	人件費等の固定費が上昇も、為替円安に伴い増益。

*1 2025年度の植物性油脂事業において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、確定後の事業利益の値を反映。

6 ページ目をご覧ください。事業利益における、前年同期比でのウォーターフォールチャートとなります。

まず、数量要因は、植物性油脂事業の CBE や大豆加工素材事業の大豆たん白素材の販売数量増加により、プラス 13 億円となりました。単価要因は、ブラマーにおけるカカオ相場下落に伴う販売価格の低下はありますが、カカオ特殊要因の費用が減少しました。結果、価格改定と原材料等をネットして、プラス 26 億円となりました。固定費・経費・為替等は、固定費の上昇がありましたが、為替円安に伴う海外グループ会社の取り込み利益の寄与により、プラス 1 億円となりました。

以上により、事業利益は前年同期比で 41 億円増益の 96 億円を達成しました。



植物性油脂事業

FY2026Q1 事業利益 84億円（前年同期比 ▲5 億円）

チョコレート用油脂(CBE)の需要は引き続き堅調、販売数量は高水準で推移。

エリア別動向

- 日本** 顧客での採用拡大によりCBEの販売数量が増加。
- 欧米** 米州では、顧客での採用拡大によりCBEの販売数量が増加。
- アジア** CBEの需要は継続も、顧客の在庫調整により販売数量は減少。

チョコレート用油脂(CBE)販売数量推移
(不二製油グループ会社向けの販売を含む)

乳化・発酵素材事業

FY2026Q1 事業利益 1億円（前年同期比 +0 億円）

市場動向を捉えた製品提案により、日本で販売数量が増加。原材料価格は上昇したが各エリアで価格対応が進捗。

エリア別動向

- 日本** 製菓・製パン市場を中心に、クリームやマーガリンの販売数量が伸長。
- アジア** 市況低迷による影響があるが、販売価格の適正化を推進。



大豆加工素材事業

FY2026Q1 事業利益 7億円（前年同期比 +7 億円）

提案強化、品質改良によりプロテイン需要の拡大を捉え、大豆たん白素材製品の販売が拡大。

エリア別動向

- 日本** 需要拡大を捉えた提案強化、品質改良により販売数量が増加。
- アジア** 中国において機能剤の販売数量が増加。

7 ページ目をご覧ください。植物性油脂事業、乳化・発酵素材事業、大豆加工素材事業についてご説明いたします。

まず、植物性油脂事業ですが、第1四半期の事業利益は、前年同期比5億円減益の84億円となりました。前年同期には原材料価格が安定したことで確保できた利益があり、今年度はその利益が縮小しました。

一方で、CBEについては堅調な販売に加え、収益性においても前年並みを維持することができ、会社想定より上振れて着地しました。CBEについては、エリア別では、日本と米州では顧客での使用拡大により販売数量が増加しました。アジアでは販売数量は減少していますが、顧客の在庫調整によるものであり、需要は堅調に推移しております。

これらの結果、第1四半期のCBEの販売数量は、前年同期比プラス7%となりました。

次に、乳化・発酵素材事業です。事業利益は前年同期並みの1億円となりました。日本では、市場動向を捉えた製品提案により、製菓製パン市場を中心に、クリームやマーガリンの販売数量が増加しました。アジアでは、市況低迷により販売は苦戦しましたが、原材料価格の上昇に応じた販売価格対応を進めました。

大豆加工素材事業は、事業利益は前年同期比7億円増益の7億円となりました。ホエイプロテインの供給がタイトとなるなか、日本においてもプロテイン需要を捉え、大豆たん白素材製品の提案強

化や品質改良を進めたことで、販売が伸長いたしました。また、飲料向けの機能剤販売も、日本、中国で堅調に推移しました。

1. 2026年度 第1四半期実績

業務用チョコレート事業

不二製油株式会社

ブラマーではカカオ特殊要因の縮小が進み、損失が改善。下期からの新工場稼働開始に合わせ、拡販を推進。

FY2026Q1 事業利益 5 億円（前年同期比 +38 億円）

エリア別動向

日本

カカオ関連の高値在庫の影響は残るが、新工場の生産能力を活用した拡販を推進する。

欧米

ブラジルではコンパウンドチョコレートの需要は堅調も、販売数量は減少。価格対応により収益性は改善。

アジア

コンパウンドチョコレートの需要が堅調に推移し、販売数量が増加。

（日本）

2026年5月より新工場の稼働を開始

（日本）

新製品：ソワイユショコラ
深みのあるカカオ風味と使いやすさを兼ね備えた新しいソフトチョコ

（ブラジル）

閑散期における販売促進のためキャンペーンを実施

ブラマー 業績

第1四半期はカカオ特殊要因（先物限月乗換コスト）の影響が残ったが、前年同期比では損失が縮小し、事業利益は大幅改善。

（単位：億円）

	FY2025 1Q実績	FY2026 1Q実績	前年同期比
売上高	500	344	▲156
事業利益*1	▲54	▲15	+39

*1 連結調整前の数値。

ブラマー 販売動向

市況低迷により前年割れが続いていたブラマーのチョコレート製品販売数量は、今第1四半期に前年同期比で増加に転じた。

コンパウンド製品 販売数量

YOY +11% YOY +4%

FY2024 1Q実績 FY2025 1Q実績 FY2026 1Q実績

（ブラマー）

2026年度下期の新設備稼働に向け、販売契約が進捗

8 ページ目をご覧ください。業務用チョコレート事業について説明いたします。

第1四半期の事業利益は、38 億円増益の 5 億円となりました。ブラマーについては想定通りの進捗であり、ブラマー以外のグループ各社においても、強みとするコンパウンドチョコレート製品を中心とした展開を図ることができました。

まず日本では、高値のカカオ原料使用により収益性が低下し、減益となりましたが、5 月より新工場が順調に稼働し、案件獲得により、下期以降で販売数量の増加を見込んでおります。

ブラジルでは、2025 年度に価格改定を進めた結果、収益性が改善いたしました。販売数量については、イースター後の顧客での在庫調整もあり、減少しましたが、販促キャンペーンも実施しており、第2四半期以降に販売数量の回復を見込んでおります。

アジアでは、コンパウンドチョコレートの需要が堅調に推移し、販売数量が増加しました。

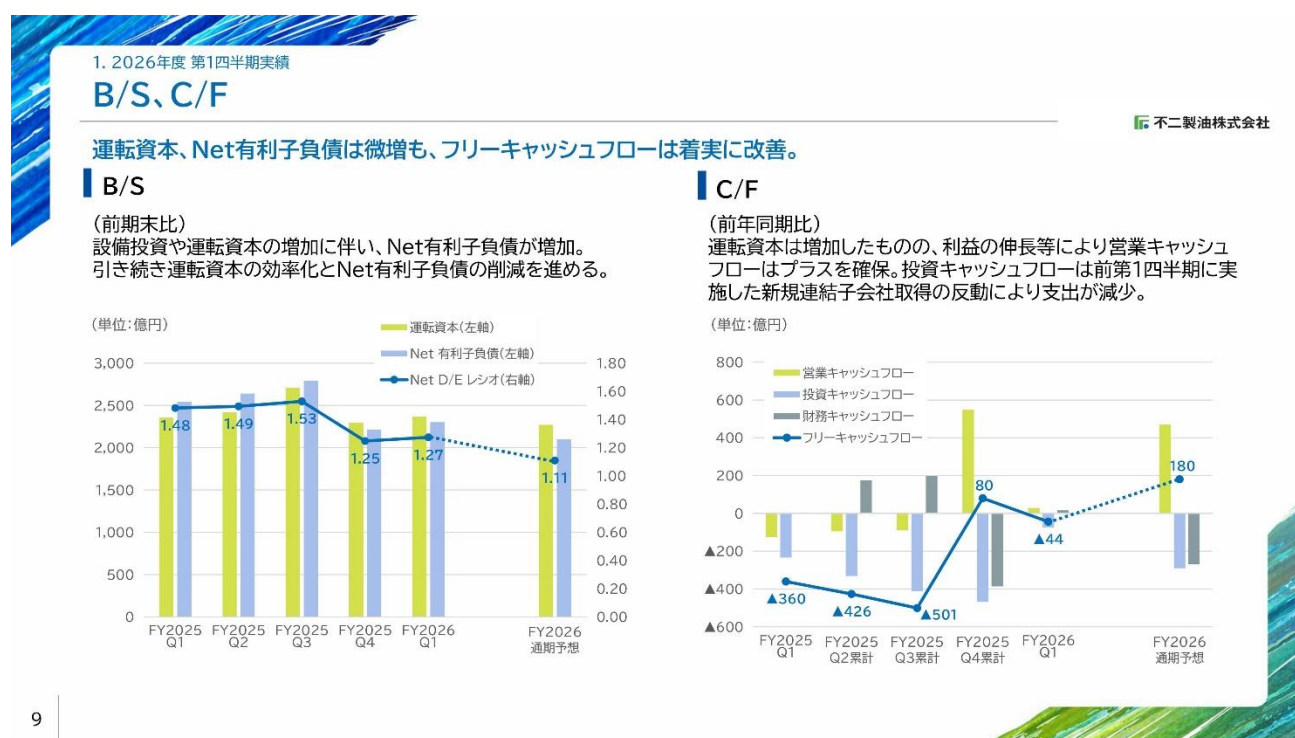
続いて、ブラマーにつきましては、売上高は 156 億円減収の 344 億円、事業利益は 39 億円増益のマイナス 15 億円、このうちカカオ特殊要因は 10 億円弱の損となりました。カカオ特殊要因については、第1四半期においては損失要因となりましたが、想定並みの着地であり、第2四半期以降も着実に損失が縮小していく見込みです。

売上高については、カカオ製品群の販売数量の減少に加え、カカオ価格下落に伴う販売価格の低下により、減収となりました。事業利益については、前年同期比で約 40 億円の増益ですが、カカオ特殊要因の改善が約 30 億円、特殊要因以外での改善が約 10 億円と見ております。

第 1 四半期はシーズンリティーとしても閑散期にあたり赤字決算ではございますが、今後の需要期に向けて改善が進んでおります。

販売動向については、ブラマーの販売数量は、米国でのチョコレート市況の低迷や、シカゴ工場の閉鎖もあり、この数年は前年割れが続いておりましたが、この第 1 四半期では、チョコレート製品の販売数量が前年同期比 101%と、増加に転じました。中でもコンパウンド製品については、前年同期比 104%となりました。

新工場についても、今年度下期より稼働開始予定です。販売契約も進捗しており、販売数量の増加を見込んでおります。



9 ページ目をご覧ください。バランスシート、キャッシュフローについてご説明いたします。

バランスシートにおいては、前期末との比較では、運転資本や設備投資の増加に伴い Net 有利子負債は増加しました。

キャッシュフローにおいては、営業キャッシュフローは利益伸長によりプラスを確保しました。投資キャッシュフローは、前第 1 四半期には植物性油脂事業の新規連結子会社取得がございましたが、その反動により支出は減少しております。

引き続き、運転資本の効率化と Net 有利子負債の削減に注力し、財務基盤の強化を進めてまいります。

1. 2026年度 第1四半期実績

第1四半期:売上高・事業利益(事業別・所在地別マトリクス)

(単位:百万円)									
売上高	年度	日本	欧米		アジア		連結計		
			YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2026 1Q実績 (IFRS)	18,218	▲772	39,243	+6,890	14,406	+2,553	71,869	+8,671
	2025 1Q実績 (IFRS)	18,990	+4,823	32,353	+7,800	11,853	+2,885	63,197	+15,509
	2024 1Q実績 (IFRS)	14,167	-	24,552	-	8,968	-	47,688	-
	2026 1Q実績 (IFRS)	15,647	▲359	48,898	▲13,321	10,816	+1,400	75,362	▲12,279
業務用 チョコレート	2025 1Q実績 (IFRS)	16,006	+4,126	62,220	+8,887	9,415	+1,054	87,641	+14,068
	2024 1Q実績 (IFRS)	11,879	-	53,332	-	8,360	-	73,573	-
	2026 1Q実績 (IFRS)	15,619	+578	-	-	7,893	+447	23,513	+1,026
	2025 1Q実績 (IFRS)	15,040	+451	-	-	7,446	▲130	22,486	+320
乳化・発酵素材	2024 1Q実績 (IFRS)	14,589	-	-	-	7,576	-	22,166	-
	2026 1Q実績 (IFRS)	8,818	+476	17	+17	225	+63	9,062	+557
	2025 1Q実績 (IFRS)	8,342	▲410	-	-	161	▲23	8,504	▲433
	2024 1Q実績 (IFRS)	8,753	-	-	-	185	-	8,938	-
大豆加工素材	2026 1Q実績 (IFRS)	58,303	▲76	88,160	▲6,413	33,342	+4,465	179,807	▲2,024
	2025 1Q実績 (IFRS)	58,380	+8,991	94,573	+16,688	28,876	+3,785	181,831	+29,465
	2024 1Q実績 (IFRS)	49,389	-	77,885	-	25,091	-	152,366	-
事業利益	年度	日本	欧米		アジア		連結調整		連結計
			YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2026 1Q実績 (IFRS)	2,772	▲172	3,164	+164	2,210	▲952	210	+459
	2025 1Q実績 (IFRS)	2,944	+1,755	3,000	+671	3,162	+1,714	▲249	+139
	2024 1Q実績 (IFRS)	1,189	-	2,328	-	1,447	-	▲388	-
	2026 1Q実績 (IFRS)	851	▲1,006	▲1,324	+4,374	696	+237	251	+173
業務用 チョコレート	2025 1Q実績 (IFRS)	1,857	+363	▲5,698	▲6,658	459	▲381	78	+114
	2024 1Q実績 (IFRS)	1,494	-	960	-	840	-	▲35	-
	2026 1Q実績 (IFRS)	306	+53	-	-	▲207	+86	13	▲97
	2025 1Q実績 (IFRS)	252	▲287	-	-	▲294	▲333	111	+164
乳化・発酵素材	2024 1Q実績 (IFRS)	540	-	-	-	39	-	▲52	-
	2026 1Q実績 (IFRS)	761	+596	▲187	+117	189	+102	▲67	+7
	2025 1Q実績 (IFRS)	164	+48	▲204	+1	87	+1	75	▲76
	2024 1Q実績 (IFRS)	115	-	▲205	-	86	-	1	-
大豆加工素材	2026 1Q実績 (IFRS)	▲9	+36	▲149	▲158	▲19	+119	121	+37
	2025 1Q実績 (IFRS)	▲45	▲31	8	+117	▲138	▲146	84	▲15
	2024 1Q実績 (IFRS)	-	-	▲108	-	7	-	100	-
	2026 1Q実績 (IFRS)	4,681	▲492	1,503	+4,397	2,869	▲407	529	+579
連結調整	2025 1Q実績 (IFRS)	5,174	+1,848	▲2,893	▲5,868	3,276	+855	▲50	+325
	2024 1Q実績 (IFRS)	3,325	-	2,974	-	2,421	-	▲375	-
事業利益計									

* 2025年度より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。2024年度実績はIFRSベースに組み替えて表示。
* 2025年度の植物性油脂事業において、企業統合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、確定後の事業利益の値を反映。

10

10 ページ目は、2026 年度第 1 四半期業績に関する事業とエリア別のマトリクスとなりますので、ご参考ください。

2. 2026年度 通期業績予想

2026年度 通期業績予想

植物性油脂事業、大豆加工素材事業が堅調に推移し、全体として想定を上回る進捗。

通期業績予想

2026年度通期は、植物性油脂事業におけるチョコレート用油脂(CBE)の堅調な販売の継続に加え、米国ブラマーでのカカオ特殊要因の費用減少やコンパウンド製品の伸長により、収益性の向上を図る。第1四半期時点では中東情勢による大きなリスクは発現しておらず、今後の影響は限定的と見込む。

第2四半期以降の見通し

(単位:億円)					
	FY2025実績	FY2026予想	前期比		
売上高	7,723	7,540	▲183	植物性油脂	チョコレート用油脂(CBE)の堅調な販売により、安定した利益確保を見込む。
事業利益	360	375	+15	業務用 チョコレート	ブラマーのカカオ特殊要因の費用減少や、グループ各社での販売拡大に加え、高値在庫の消化により収益性改善を見込む。
親会社の所有者に帰属する 当期利益	111	195	+84	乳化・ 発酵素材	日本では堅調な販売数量を見込む中、コストアップへの対応を進める。海外では市場環境の変化に対応し、販売・製造の最適化や販売戦略の再構築を推進。
				大豆 加工素材	プロテイン需要の拡大を捉えた提案強化や、品質改良により収益向上を見込む。

12

12 ページ目をご覧ください。2026 年度通期業績予想についてご説明いたします。

第1四半期においては、植物性油脂事業、大豆加工素材事業が想定を上回り進捗いたしました。

通期においても、植物性油脂事業でのCBEの堅調な販売に加え、業務用チョコレート事業でのブラマーでのカカオ特殊要因の費用減少やグループ各社での販売拡大により、収益性向上を図ります。中東情勢についても、物流、包材などのコストアップはあるものの、現時点では大きなリスクは生じておらず、今後の影響も限定的と想定しております。

最後になりますが、依然として事業環境における不確実性は高い状況ですが、中期経営計画の基本方針に沿った各事業における施策が成果として業績に表れております。

通期目標である事業利益375億円は必達として、全社一丸となって取り組んでまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

司会：それでは、ここから質疑応答に入ります。

質問者：第1四半期、事業利益が100億円弱で7割増益ですが、会社の計画より上振れているのでしょうか。事業別で想定より上振れが大きいところがあるようでしたら、そちらも併せてコメントいただけないでしょうか。

前田：第1四半期の実績は、期初想定を上回って着地しました。通期事業利益375億円の達成に向けては、順調なスタートを切ることができたと認識しております。事業別では植物性油脂事業ならびに大豆加工素材事業の二つの事業は、期初想定を上回る結果になりました。

質問者：ありがとうございます。植物性油脂事業で期初想定を上回った要因を教えてください。

前田：植物性油脂事業で上回ったのは、主に日本と米州の二つとなります。日本、米州ともに、CBEの販売が期初想定を上回りました。

また、通期で約50億円、原料差益の剥落があると申し上げました。上期に主に発生すると期初にご説明申し上げましたが、そちらの減益部分が、期初想定よりも第1四半期については小さな額で収まりました。

質問者：わかりました。ありがとうございます。質問2点目は、業務用チョコレートブラマーについてです。第1四半期におけるカカオ特殊要因とそれを除く実質の事業利益を教えてください。

前田：ブラマー個社の数字で申し上げますと、全体ではプレゼン資料8ページに記載の通り、第1四半期の実績は15億円の赤字でございました。このうち約10億円が特殊要因でございます。

質問者：ブラマーの年間計画の30億円黒字に向けては順調な進捗ということですか。

前田：第1四半期の業績につきましては想定の範囲内と考えております。

特にブラマーにおきましては、下期から新しい新工場が稼働いたしますので、そちらの稼働、ならびに販売数量の増加を含めて、現時点では引き続き通期で30億円の黒字を目指しています。

質問者：かしこまりました。どうもありがとうございます。

質問者：2点質問です。まず1点目は、通期計画に対しての考え方についてです。非常に1Q良いスタートでした。利益としてはもともと下期に比重を置いた計画を立てられていましたが、今回通

期計画を据え置かれています。その辺り何か 2Q 以降、警戒されている点があるのか。それとも実質的には上振れが狙っていけるような水準でしょうか。

前田：先ほど申し上げた通り、第 1 四半期の実績は期初想定を上回っています。一方で、通期業績については、現時点で判断することは時期尚早と考えております。期初計画で連結調整に織り込みました中東情勢、米国関税、市場動向などのリスク要因の 35 億円については、現時点では発生可能性は少ない、業績に大きな影響を与える事象にはならないと認識はしていますが、引き続き注意深くモニタリングしていきます。

また、第 1 四半期の植物性油脂事業には、一過性要因が含まれています。第 2 四半期は原料差益の剥落部分については、第 1 四半期より若干金額が大きくなると考えております。事業利益 375 億円の期初目標は必達、それ以上の数字を目指していくという不二製油グループとしての姿勢について何ら変わりはありません。

質問者：ありがとうございます。期初見込まれていた 35 億円については、発生可能性が少ないというところで、その辺りが一つ上振れのポイントになると理解しました。植物性油脂事業の一過性の要因とはどれぐらいになりますか。

前田：まず、原料差益が今期は上期を中心に 50 億円剥落すると申し上げましたが、第 1 四半期の剥落額は 10 億円であったと分析しています。期初想定より小さな額に収まっており、一部第 2 四半期にずれ込んでいると考えています。

また、米州で利益が大きく増加していますが、お客様要因での前期から第 1 四半期への販売の期ずれがございまして、一過性利益として約 5 億円、第 1 四半期の植物性油脂事業の数字に上乗せされていると分析をしております。

質問者：わかりました。ありがとうございます。

2 点目、CBE の単価動向を教えていただきたいです。足元でカカオ相場が上昇していますが、CBE の単価にどう影響するか。それが期初想定から変化があるか。その点に関して伺いたいです。

前田：CBE の販売単価、カカオ相場との関連性についてご質問を頂戴いたしました。

まず実績値を申し上げますと、第 1 四半期の CBE の販売におきまして、採算性は前期から大きく変わってない状況でございます。一方で、2026 年度第 4 四半期以降の契約が、まだ未契約であり、慎重に見ています。

ご質問いただきました通り、カカオ相場が一旦 3,000 ドルまで下がったうえで、今 6,000 ドル近辺で推移しているところは、CBE の単価につきましてはプラス要因でございますが、現時点では業

績予想 375 億円含めて、こちらに大きな影響を与えるような単価の動きはないとご理解いただければと思います。

質問者：ありがとうございます。CBE の単価は、もともと今期の後半から下がるとみていたと思いますが、足元のカカオ相場が上昇していることで、今はどのように考えていますか。

前田：カカオ相場が上がると、お客様のほうでも CBE の使用が増えるという流れになりますので、そこは私どもにとってプラス要因になるとご理解いただければと思います。

質問者：CBE の単価が下がるような傾向は今のところ見えてきていない、そういった理解で大丈夫でしょうか。

前田：現時点では下がるような傾向は出ておりません。

質問者：かしこまりました。ありがとうございます。

質問者：私は植物性油脂事業の原料差益の部分について伺います。期初想定では 50 億円のリスクでしたが、第 1 四半期は 10 億円ぐらいマイナスでした。加えて、米州でプラス 5 億円の一時要因もあったと説明されていました。2Q に向けて、今の状況が 1Q と比べて何か変わることがあるのでしょうか。

前田：まず、現時点で原料差益の剥落については、通期で期初想定 of 50 億円を下回る見込みでございます。ただし、第 1 四半期で 10 億円でしたが、第 2 四半期の剥落額は 10 億円よりも上回ると見ております。具体的な数字については、申し上げづらいですが、通期においては 50 億円よりも下回る。2Q においては、1Q よりも剥落額が増えると考えています。

質問者：なるほど。特に何か急激に環境が悪くなる感じではないということですね。

前田：はい。第 1 四半期から急激に大きく変化するというものではございませんし、期初想定からも大きく変化しているわけではありません。ただし、原料差益の剥落は、50 億円よりも下回る着地になると見込んでいます。

質問者：ありがとうございます。あと、CBE は日本と米州が非常に良かったのですが、その理由と、2Q 以降に継続するのかどうかについてコメントをいただけますでしょうか。

前田：まず、米州ですが、昨年度、唯一エリア別では CBE の販売が大きく増加しなかった地域になります。1 年遅れとはなりますけれども、CBE への需要が本格的に回復してきたというところが米州での増加になります。

日本におきましては、当社のシェアが高いエリアでございますが、お客様の使用量が増加したことで、当社の販売数量の増加につながりました。

質問者：わかりました。持続性で言うと、2Q以降も特に変わらないと考えて良いでしょうか。

前田：第1四半期の流れは第2四半期以降も継続していきますし、契約についても順調に進捗している状況でございます。

質問者：次に、久方ぶりにブラマーはチョコレート製品の販売数量 YOY+1%とプラスになっています。これは末端のチョコレート菓子市場において、少し改善の兆しが出てきているということで理解していいですか。

前田：まず、米国のチョコレートマーケット、チョコレート菓子市場の状況でございます。

National Confectioners Association のデータによりますと、数量ベースでは引き続き前年を下回っており、まだまだ回復の兆しが見えていないところでございます。

そのなかで、ブラマーにおきましてはピュアチョコレートとコンパウンドチョコレートの合計であるチョコレート製品の販売数量が、前年同期比で1%増加しました。1%と言われると、少ない数字と受け止められるかもしれませんが、先ほど申し上げた通り市場全体が減少していくなかで、ブラマーにおいては1%増加というのが、これまでのブラマーの施策が成果として着実に表れた結果と考えております。

質問者：ありがとうございます。ピュアが減ってコンパウンドが増えて、ネットでプラスになったということでよろしいですか。

前田：前年同期比でコンパウンドが4%増えてピュアが2%減りました。

質問者：わかりました。ありがとうございます。

質問者：一つ目の質問として、原料差益が1Qよりも2Qのほうが大きくなるというのは、どのように考えればいいですか。つまりパームなどの原料価格が4月から上がってきたので、御社の原料コストが上がっていくということでしょうか。一方で、当然ながら価格転嫁も進めていくと思います。なぜ原料差益の増減が生じるかご解説いただけますか。

二つ目の質問は、ブラマーについてです。数量がプラスになってよかったと思っています。ただ一方で、冒頭にもあった通り、カカオ相場がもう一度上昇しています。今すぐカカオのコストアップに直面するわけではないですけれども、1年、2年先を見据えて、しっかりと管理できていくのか、考えを教えてくださいませんか。

前田：まず一つ目ですが、原料差益は前年との比較ですので、パームが上がっているか下がっているかよりも、期初で申しあげました 50 億円の差益剥落がどのように発現するかを分析しています。私どもの分析では、原料差益の剥落は、通期では 50 億円を下回る結果で着地するだろうとみております。また、第 1 四半期より第 2 四半期のほうが対前年との比較では損が大きくなると見ています。今回私が申しあげた部分についてはパーム価格変動や、ならびに販売価格の転嫁の動きについては直接関係ないもののご理解を頂戴できればと思います。

質問者：実際、価格転嫁は進めていくわけですね。

前田：もちろんです。原材料価格のみならず、あらゆるコストの変動につきましては販売価格改定に反映させておりますので、適宜動いている形でございます。

二つ目の質問について、まず、ブラマーも基本的には原材料価格上昇に応じて、販売価格の改定を行っています。リスク低減も進んでおり、以前のようなカカオ相場的大幅な変動や需要の変化がない限りは、ブラマーにおきましては着実に価格、採算を管理できているとご理解いただければと思います。

現時点の数字を申し上げますと、当然カカオ価格が低くなったとき、3,000 ドル近辺のときにピュアチョコレートが非常に進みました。その後、今 6,000 ドル前後で推移しておりますので、現時点では下半期に稼働するキャンベルフォードのカナダ新工場稼働もあり、コンパウンドチョコレート契約推進を期待しているところでございます。

質問者：ブラマーの数量面のところで教えてください。1Q でプラス 1%と、久方ぶりに販売数量がプラスとなりました。一方で、通期の計画はピュアでプラス 10%、コンパウンドでプラス 30%と、チャレンジングだと思います。今の通期の計画に対してどのような進捗でしょうか。

前田：まず、ピュアチョコレートにつきましては、一時期カカオ価格が 3,000 ドル近辺になったことで、このタイミングでピュアチョコレートの契約が進みまして、年間の販売目標であるプラス 10%に近い契約状況になっています。

コンパウンドにつきましては、そういったカカオ価格の状況もございますので、ピュアチョコレートよりも契約が若干遅れていますが、昨今のカカオ相場の動き、ならびに特に CBE コンパウンドを中心とする新工場の稼働がございますので、こちらについては引き続き 30%の増加、ないしはチョコレート全体で 20%前後の動きを期待しているところでございます。

質問者：なるほど。いずれにしても数量はしっかりと復調して、しっかり強いモメンタムに戻っていくというようなイメージ感ですね。

前田：そうですね。今までの施策の成果が着実に表れてきていると考えております。

質問者：わかりました。ありがとうございます。

質問者：2つ質問させてください。

一つ目は米国市場について。先ほど植物性油脂事業で、CBE の需要が1年遅れで米国市場でも伸びてきていると説明されていましたが、その背景を教えてください。そしてこれがブラマーの新工場の稼働にどんな影響を与えるのかも含めて、ご解説いただきたいです。

二つ目が大豆です。大豆加工素材事業が1Qで7億円の利益です。通期計画は赤字の計画ですが、上振れているということでもいいのか教えてください。

前田：まず一つ目のご質問について、先ほどの私の説明が分かりづらかったと思います。CBE の需要が1年遅れということではなく、昨年度米国ではあまり需要が芳しくなかったわけですが、昨今のカカオ相場の上昇も含めて、CBE 需要が米州でも本格化してきました。2025年度の米国でのCBE の販売は2024年度とほぼ横ばいでしたが、今年は大きく増加しています。こうした動きは、ブラマーの新工場で注力するCBE コンパウンドチョコレートにおいてもポジティブだと理解をしております。

二つ目の質問の大豆加工素材事業の増益について、数量増加のポイントは主に二つございます。

まず一つ目が、粉末状の大豆たん白の増加。もう一つが機能剤の増加でございます。粉末状大豆たん白につきましては、世界でのホエイプロテインの品不足からソイプロテインに注目が出ておりまして、日本もその傾向がございます。

そのなかで、各種提案活動、品質改良等を行い、お客様での認知が高まり、採用につながっているというのが、粉末状大豆たん白の数量増加の要因になります。

機能剤は、昨年度はお客様のご都合もございまして数量が減少しましたが、2026年度はお客様の販売の回復もあり、また、日本、中国で新規採用もございました。

大豆加工素材は、年間では4億円の赤字の計画です。昨年度9億円弱の赤字でございましたけれども、この第1四半期の7億円の部分を取り崩さぬように、2026年度通期は黒字を目指したいと考えています。

質問者：ありがとうございます。大豆加工の売上の増収は6億円に対し、事業利益が7億改善していますが、その背景を教えてください。また、粉末状大豆たん白と機能剤のどちらが7億増益のウエートが高いのでしょうか。

前田：売上高については、原料相場の動きが影響しますので、あまり注視しておりません。

事業利益について、前年同期比での増益への寄与度としては、機能剤よりも粉末状大豆たん白のほうが大きいと考えています。

質問者：大豆加工素材の業績について持続性はありますか。1Qで事業利益が7億円でしたが、通期では、7億円×4にはなりません。

前田：その考え方は持ちあわせていません。ソイプロテイン、機能剤どちらも、飲料向けが多くありますので、上期の利益額が大きくなります。私が想定しているのは、1Qの7億円を貯金としながら、なくならないように、通期でコントロールしたいと考えています。

質問者：ホエイプロテインの価格が上がって、ソイプロテインの需要が伸びるというのは、ある種、大きな潮流だと思うので持続性があると私は思います。

もう1点質問です。ブラマーで特殊要因以外が良くなっている理由は、カカオの原価が下がってきて価格転嫁が通っているからでしょうか。2Q以降、特殊要因はなくなるということでもいいのかだけ確認させてください。

前田：まず、第1四半期は15億円の赤字、カカオ特殊要因が10億円前後ということで、特殊要因除く利益は5億円の赤字でございます。特殊要因を除く事業利益は昨年よりも改善していますが、カカオ相場そのものというよりも、これまでブラマーが行ってきた、生産効率の改善や管理体制の強化などの施策効果が表れているものと考えています。

カカオ特殊要因については、第2四半期は縮小し、下期には平準化し、通常の採算、通常のオペレーションになると考えておるところでございます。

質問者：わかりました。ブラマーのカカオ原価はすでに下がっていますか、それともこれからでしょうか。

前田：カカオ原価は下がってはきておりますけれども、カカオ価格と紐づけて、一定の margins をキープしながら、チョコレートの販売価格を決めています。

質問者：なるほど。でも、特殊要因を除いた5億円の赤字は下期にはなくなるのですね。

前田：そうですね。5億円の赤字につきましては、第1四半期、ご承知の通りチョコレートは閑散期のシーズンであったことが影響しています。販売数量が第2四半期、第3四半期、第4四半期に向けて増加していくことに期待をしております。また特殊要因は、相場そのものが期先高を構成しており、新たに先物限月乗換コストが発生する状況ではありません。先ほど少し申し上げました

けれども、第2、第3四半期以降は通常の採算、通常のオペレーションに戻ることをご理解いただければと思います。

質問者：理解しました。どうもありがとうございます。

質問者：CBEの状況について改めて教えてください。今、販売価格は上がってきているのか。例えばYear-on-Year、ないし前四半期と比べて、今CBEの価格、エリア別にどのような状況になっているのか教えてください。

また、今回販売数量7%増について、エリア別に詳細を教えていただけないでしょうか。

前田：ご質問ありがとうございます。

まず、第1四半期の実績を申し上げますと、販売単価は昨年度を上回っております。これの一部は円安の影響もあるため、海外についてはほぼ横ばいであると認識しております。この数字につきましては、既存契約の間は継続してまいりますので、年度の約4分の3はこの単価で推移するだろうと考えております。

冒頭、説明でも少し申し上げましたが、2026年度第4四半期以降は、まだ新規契約が締結されてない状況です。こちらについては改めて状況を見極めながら、皆様にはお知らせできればと考えております。

続きまして、エリア別の数量について、前年から大きく増加しているのは、米州と日本です。一方で、アジアならびにヨーロッパでは減少でございます。アジアは一部お客様の状況によりデリバリーが進みませんでした。ただ、CBE需要そのものが減少しているわけではないので、通期を通じて期初計画に近い販売数量を目標にしているところには変更はございません。欧州市場については、チョコレートの需要が弱い傾向がございます。

質問者：そうするとエリア別の違いはありますが、今年度は若干の数量増が続くと思います。足元のカカオ高は、2027年度を考えた際に、追い風になってくるものでしょうか。

前田：通期では2026年度は5%の販売数量増加を見込んでおりました。第1四半期7%ということで期初想定を上回る状況ではございますけれども、第2四半期以降も5%、または第1四半期の増加幅に近いところで推移すると見込んでいます。

もちろん、カカオ価格が上昇すると、CBEにとっては追い風になります。CBEの特長は、コスト面だけでなく機能がございますので、機能をご理解いただきながら価格にもその部分の評価をしていただくというところが大事かと思います。

質問者：価格について確認したいのですが、為替の影響を除いたベースで、海外は去年に対して価格はフラット、日本は少し上がっているのでしょうか。

前田：第1四半期の実績値を見ますと、そのような状況になります。

質問者：了解です。残りまだ決まってない4分の1に対しては、価格はどちらかというと上目線で交渉ができそうだというトーンでしょうか。

前田：何と比較するかにもよりますが、昨年度はカカオ価格6,000ドル近辺で推移をしている状況での契約を結んでいます。私どもとすると、できるだけ機能を理解していただきながら、ある程度の採算を維持して、販売契約につなげたいという状況でございます。

質問者：最後の質問です。今年決まっている4分の3の価格というのは、去年の6,000ドルのカカオをイメージした価格形成だという理解でいいでしょうか。

前田：はい、おおむねその理解で結構です。いろいろな契約がございますので一概には言えませんが、そのようにご理解を頂戴できればと思います。

質問者：承知しました。ありがとうございます。

司会：それでは、本日の決算説明会を終了させていただきます。

本日はお忙しいなか、決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございました。